

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

基山町

(都道府県:佐賀県)

1. 当該地域の情報 (2020年 1月現在)

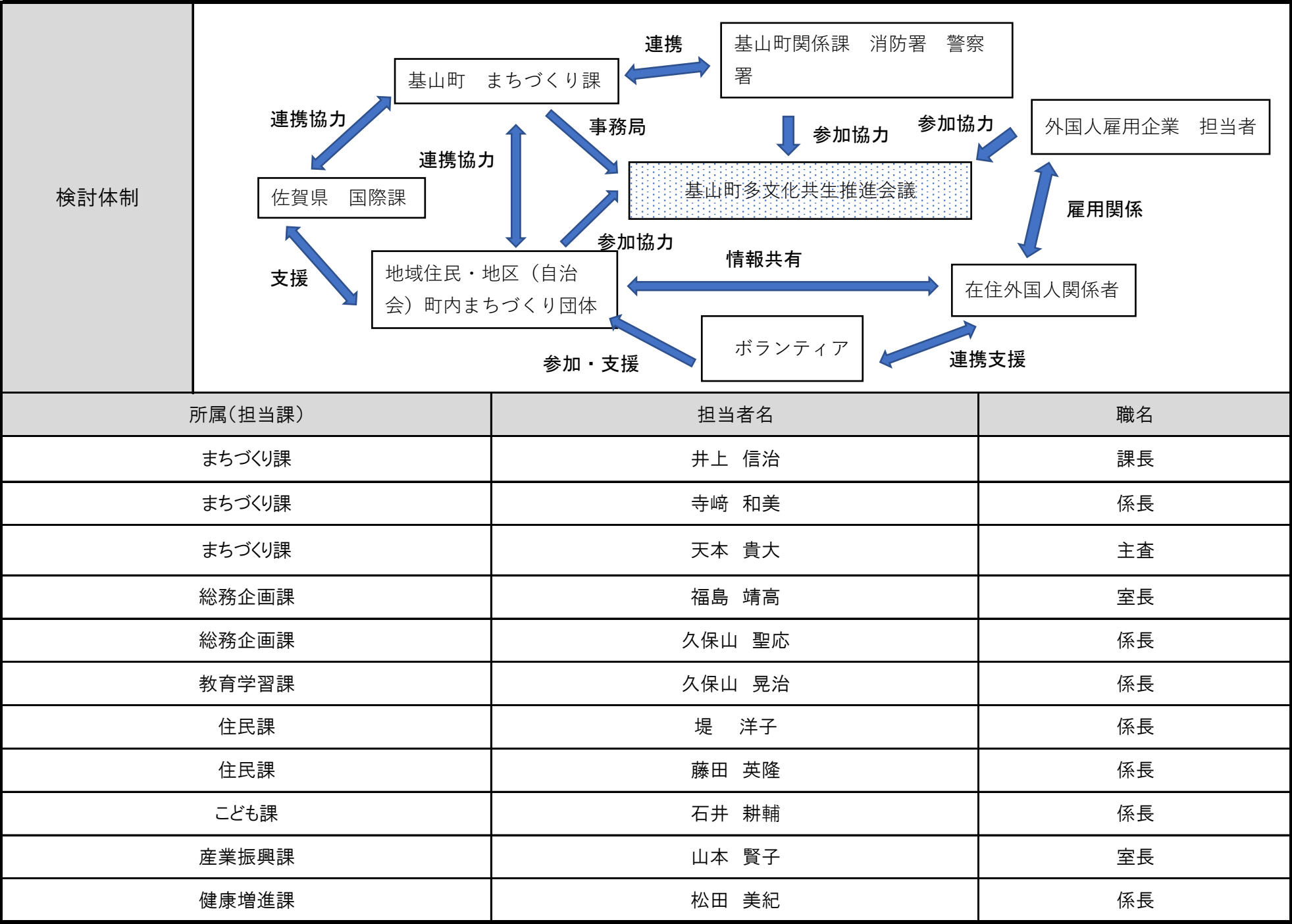
地域の課題	基山町は技能実習生や永住者、配偶者の割合が高くやさしい日本語でコミュニケーションが取れる人が多いにもかかわらず、町民の間に「外国人住民＝日本語が出来ない人が増えて不安だ」というイメージがあり、十分なコミュニケーションが取れていないという問題がある。 また外国人住民が生活に必要な情報を収集したり、自分の事を発信しようと思っても、言葉の壁が立ちはだかり、社会参画が進まないという問題がある。
在住外国人数 外国人比率	外国人登録者総数は247名で、総人口17,450人の1.4%を占めている。(令和2年1月1日現在) 県平均は0.9%
在留外国人の 状況	(令和2年1月1日現在) 【国籍】 ベトナム(149人)、中国(38人)、フィリピン(26人)、韓国又は朝鮮(10人)、タイ(5人)、米国(4人)、マレーシア(3人)、カンボジア(2人)、インドネシア、ネパール、台湾、インド、シンガポール、フランス、ルーマニア、ロシア、メキシコ、ジャマイカ、各1名、合計18か国・地域247名 【在留資格】 技能実習(174名)、永住者(24名)、技能・人文知識・国際業務(8名)、日本人の配偶者(13名)、特別永住者(9名)、定住者(5名)、企業内転勤(2名)、留学(10名)、研修(2名)
在住外国人の 日本語教育の現状	平成30年度までは、町内の多文化共生ボランティア団体が基山町まちづくり基金事業の支援を受け、テキスト等を使いながら日本語習得を目的にした日本語教室を開催していた。これとは別に、平成30年度には基山町が主体となり、地域日本語教育スタートアッププログラムを活用して、試験的に日本語教室「あみいご」を開催した。「あみいご」は地域の在住外国人が日本人住民とコミュニケーションをはかることによって日本語を習得していくことを目的としており、「あみいご」を継続的に開催していくための準備を進めた。 令和元年度に町内の多文化共生ボランティア団体は解散し、町内団体による日本語教室は終了したが、基山町は日本語教室「あみいご」を定期的を開催し、外国人が地域と触れ合う場を提供している。また、町内の様々な団体にも協力を依頼し、オール基山で生活者としての外国人住民の日本語の学びを支援する体制の整備に努めている。

2. 事業の内容

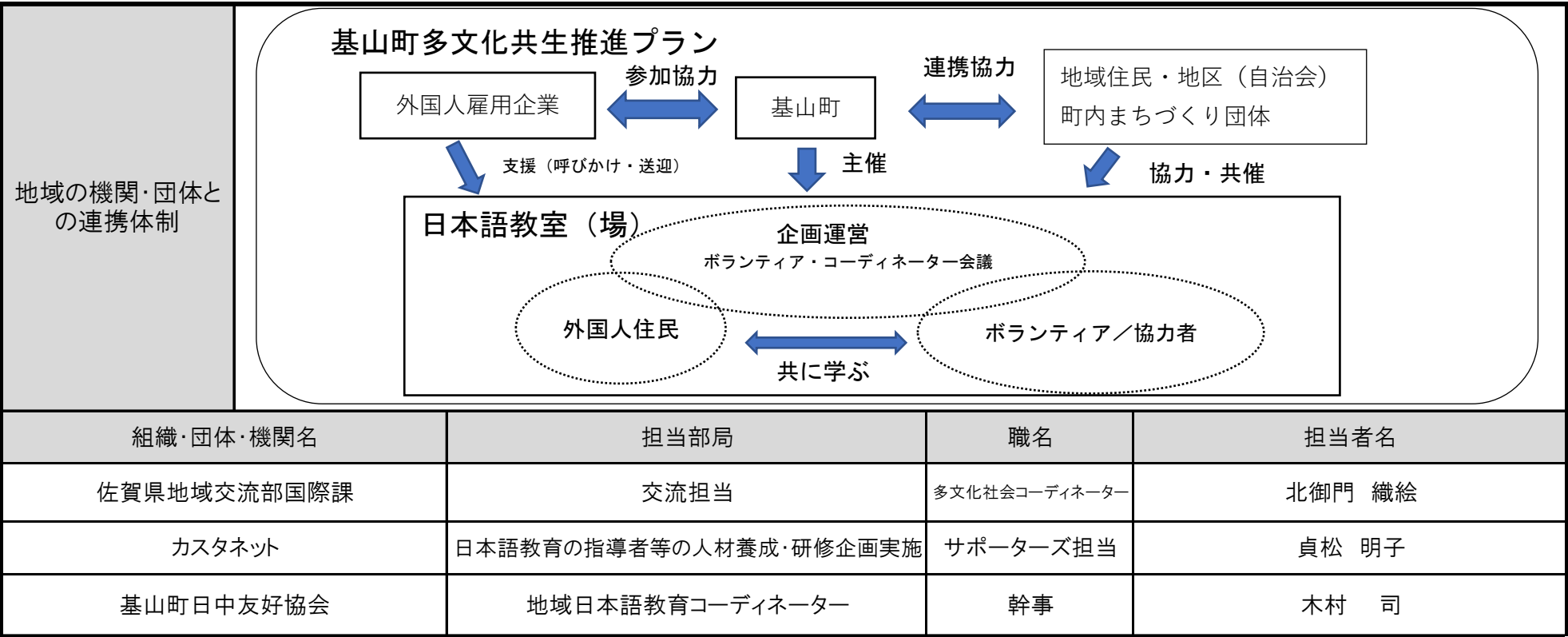
本プログラム取組年数	3 年目			
事業の目的	・日本人住民と外国人住民が十分なコミュニケーションが取れないことや意見の食い違い、生活習慣の違いに起因する偏見などの問題を解消するために、相互理解を促進し多文化共生社会の推進をはかった。 ・生活ルールや防災情報等、日本語の理解が困難な方が取得困難な情報を共有できるようにするため、町内の情報収集や発信の場、交流の場として日本語教室をつくった。			
事業の概要	外国人も日本人ボランティアも楽しんで参加でき地域に根付いていけるコミュニケーションの場としての日本語教室の開催と定着をめざし、目的を達成するために以下の3つの事業に取り組んだ。 ①基山町主催の日本語教室「あみいご」を12回企画(大雨とコロナウィルスで2回中止)。「あみいご」は、教室ボランティアだけでなく、地域住民や町内のまちづくり団体に協力を依頼し「オール基山」で外国人を受け入れることができる地域の繋がりをつくった。 ②平成30年度に開催した試験的日本語教室に参加したボランティアの中から、教室の実践・運営に携わる中心的な役割を担える人材の育成を行った。 ③基山町において日本語教育を継続的に実践するための指針、多文化共生社会の実現に向けた施策の指針とするための「多文化共生推進プラン」を策定するための内容の検討を続けている。			
事業の対象期間	平成29年4月～令和2年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	事業実施2年目(平成30年度) 「オール基山での多文化共生社会の実現に向けた体制づくり」を事業目的にかけ、以下の3つの取り組みを行った。 ①基山町主催の日本語教室開催に向けて試験的に教室を3回開いた。その中で、ボランティアを募ったところ、町内外から35名のボランティアの登録があり、広く協力者を得ることが出来た。 ②オール基山で考える多文化共生推進の体制づくりをめざし、外国人雇用企業の担当者や町民の代表者、基山町庁内関係各課の代表者、並びにコーディネーターが一同に会し、基山町多文化共生推進会議を開催し、情報交換及び課題の共有を行い横の連携が確認できた。 ③基山町における日本語教育を継続的に実施するための指針、多文化共生の実現に向けた施策の指針とするために「基山町多文化共生推進プラン」の素案(案)を作成し関係機関との調整を開始した。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	貞松 明子	カスタネット	サポーターズ担当	チーフコーディネーター
	中村 静佳	—	—	コーディネーター
	中島 敏子	—	—	コーディネーター
	木村 司	基山地区日中友好協会	幹事	コーディネーター
	寺崎 和美	基山町役場	係長	チーフコーディネーター
	天本 貴大	基山町役場	主査	コーディネーター
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	尾崎 明人	名古屋外国語大学	シニアアドバイザー	継続・新規(3年目)
	吉田 聖子	川崎市国際交流協会	アドバイザー	継続・新規(3年目)
	堀 永乃	グローバル人材サポート浜松	アドバイザー	継続・新規(3年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2)日本語教室の実施に向けて、連携・協力を行う組織・団体(図示しても構わない)



4. 具体的な取組内容
(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月	4月13日 平成31年度活動計画策定 4月21日 活動1回目(本福寺参拝―地域の名所で日本語活動―)	・16回の定期的な活動計画の策定 ・活動の打合せ、進行表作成 ・活動1:準備と進行	
2019年 5月	5月11日 アドバイザー会議 5月12日 活動2回目母国の絵本を日本語に翻訳― 自国の文化を紹介する―) 5月26日 活動3回目(病院の人と話そう― 日本語で医者にかかる不安を取り除く―)	・今年度教室活動計画の報告 ・活動2:計画作成と進行 ・活動3:メンバー、協力者の計画作成補助と進行補助	★尾崎アドバイザー、堀アドバイザー、吉田アドバイザー 11日(土)～12日(日) 今年度事業計画の検討、多文化共生推進プラン策定に向けた検討及び日本語教室の企画・運営に関する検討
2019年 6月	6月2日 活動4回目(防災―身の回りの危険について知る―) 6月10日 コーディネーター会議 年間活動計画の見直し	・活動4:計画作成とメンバーの進行補助 ・会議:7～9月の活動内容の見直し 課題の洗い出しと対策協議 メンバーの活動マナー講座を企画	
2019年 7月	7月 7日 活動5回目(七夕と習字) 7月28日 活動6回目(絵手紙―絵を使ったコミュニケーション―) 7月27日 ボランティア講座(1回目)貞松コーディネーター	・活動5:メンバーと協力して計画作成、進行 ・活動6:協力者と共に計画作成とメンバーによる進行の補助 ・養成講座:コーディネーター1名が講師として参加	
2019年 8月	8月 4日 活動7回目(夏の食べ物と健康) 8月25日 活動8回目(多言語で母語話者による絵本の読み聞かせ) 8月20日 アドバイザー会議 (2回目) ボランティアへのアドバイジング 8月22日 基山町多文化共生を考える懇談会	活動7:― (役場職員が実施) 活動8:― (メンバーを実施職員が補助) アドバイザー会議:コーディネーター役割の再検討と後半のプログラムの見直し	★吉田アドバイザー 4日(日) 活動立会い、振り返りのファシリテーション 20日(火) 地域日本語教育スタートアッププログラム報告書～日本語教室立ち上げハンドブック～を使って、コーディネーターの役割を整理 ★堀アドバイザー 22日(木) 多文化共生推進プランの推進に向けて庁内関係機関へ講義、日本人と外国籍住民が相互理解を深め、行政施策として「多文化共生」を促進していく必要があることを行政担当者と地域住民の代表らが学ぶ」
2019年 9月	9月 8日 活動9回目(消防署見学) 9月11日 コーディネーターとボランティアとの調整会議 ボランティア養成講座(2回目)	活動9:メンバーと共に計画作成と関係機関との打合せ、進行 調整会議:次年度に向けた活動の進め方についてメンバーと話し合い 養成講座:ファシリテーション	★吉田アドバイザー 11日(水) 調整会議:次年度の教室活動を運営するモデルタイプの作成についてアドバイジング、養成講座講師 「きやまぐらしのにほんごひろば『あみいご』の活動を作る
2019年 10月	町内企業訪問	・企業に向けた広報活動について役場と連絡調整 ・メンバーと共に企業訪問	

2019年 11月	11月 5日 コーディネーターとボランティアとの調整会議 11月13日 活動10回目(クリーンヒル宝満 ごみの分別とリサイクル)	会議:次年度へ向けメンバーが主体的に活動を企画するサポート 活動10:メンバーの計画作成、役場との連絡、当日の進行広報の後方支援	
2019年 12月	12月19日 コーディネーターとボランティアとの調整会議 12月22日 活動11回目(もちつき)	会議:次年度へ向けメンバーが主体的に活動を企画運営できるようサポート 活動11:参加者集め、送迎など後方支援	
2020年 1月	1月29日 町内企業訪問	・メンバーのサポート	
2020年 2月	2月 5日 コーディネーターとボランティアとの調整会議(国際フェスタ) 2月18日 コーディネーターとボランティアとの調整会議(国際フェスタ)	・メンバーと役場の関係性構築のサポート	
2020年 3月	3月1日 国際フェスタ(中止) 3月1日 アドバイザー会議(中止)		(中止)堀アドバイザー 吉田アドバイザー 1日(日)

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		きやまぐらしのにほんごひろば「あみいご」					
外国人参加者について		中国やベトナムなどの技能実習生とさまざまな国から来た日本人の配偶者			参加者数 (内 外国人数)		受講者延べ151名(130名) メンバー延べ51名(11名) 協力者18名
開催時間数		総時間 20時間			内訳 見学学習型4時間、体験学習型9時間、教室活動型7時間		
目標		外国人住民と日本人住民が助け合い理解し合いながら、やさしい日本語で地域の生活ルールや防災情報などを収集したり、自分たちの情報を発信することで、日本語でコミュニケーションする力を高めると共に、ひろく町民が交流できる場をひらく。					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2019年4月21日(日) 9:30~12:00	2.5	本福寺	13	本福寺参拝 地域の名所で日本語活動	・バスで基山町特産のエミュー飼育場を見学し本福寺へ ・車で今日の活動の目的と流れを説明 ・メンバーと参加者がペアになって参拝 ・住職の説法を聞く。 内容をメンバーがやさしい日本語を使って学習者に伝えた。 ・お寺の方々が基山町在住外国人と直接ふれあい、体験。 ・体験を振り返り、新しく覚えた言葉を確認	コーディネーター2名 あみいごメンバー13名 本福寺住職他4名
2	2019年5月12日(日) 9:30~11:30	2	まちなか公民館	12	母国の絵本を日本語に翻訳 自国の文化を紹介する	夏の「外国語の絵本の読み聞かせ会」に向けて、サポーターと共同作業で日本語で文章を書くことに挑戦。 母国語の絵本の内容を日本語でメンバーに伝える→絵を使ったり、辞書を引いたり、ジェスチャーを交えて内容を確認し合う→内容を日本語にする→文章にして書く→全員の前で読み上げる→みんなの意見を聞いて書き直す	コーディネーター 4名 あみいごメンバー 5名
3	2019年5月26日(日) 9:30~11:30	2	まちなか公民館	2	病院の人と話そう 日本語で医者にかかる不安を取り除く	・病院に勤務するサポーターが企画運営、職場の同僚の看護師や歯科衛生士も参加し、日本語教室活動を体験。 ・身体の部位や症状の伝え方を病院関係者からサポーターに手伝ってもらいながら学ぶ。 ・コーディネーターから多言語コールセンターの情報を提供。 ★学習者だけでなく病院関係者からも喜ばれた。 ・受診する科、症状・覚えた言葉を使ってゲーム	コーディネーター2名 あみいごメンバー5名 医療関係者4名
4	2019年6月2日(日) 9:30~11:30	2	まちなか公民館	12	災害	・防災課の担当者による基山町出前講座 ・大雨の時の避難の注意点 ・防災マップを使った危険地域の確認など ・防災無線とサイレンの説明 ・各国の早口言葉紹介 ★防災課の職員は初めて外国人を担当し、情報を伝える難しさを体験 ★メンバーは役所の説明の難しさと命を守る情報をやさしい日本語で伝える難しさを体験	コーディネーター1名 あみいごメンバー4名 防災担当者1名
5	2019年7月7日(日) 9:30~10:30	1	まちなか公民館	0	七夕・習字	外国人参加者が0名だったので、コーディネーター1名とメンバーそして役場の2名で話し合い。 ・日本語能力試験の日に教室を設定したのがよくなかったようである。	コーディネーター 1名 あみいごメンバー 5名
	2019年7月21日(日) 9:00~14:00				日本の伝統文化「祭り」体験！ 神輿を担いで皆でわっしょい	大雨のため中止 第1回活動で訪れた本福寺の「みこし祭り」に地域住民の1グループとして参加し、地域住民との交流を図り、地域の伝統行事を体験する。	
6	2019年7月28日(日) 10:00~11:30	1.5	まちなか公民館	3	絵手紙 絵を使ったコミュニケーション	外部講師の指導で、学習者支援者ともに初体験の活動 ★本活動終了後、2名の外国人住民がはじめて一般の教室に参加し、講師学習者双方から非常に感謝された。	コーディネーター2名 あみいごメンバー7名 絵手紙教室講師2名

7	2019年8月4日(日) 10:00～11:30	1.5	まちなか公民館	1	夏の食べ物と健康	・基山町に多い夏の食べ物を切り口に、各自の食生活や夏バテ対策について話した。 ★次年度に向けて教室活動の中心をコーディネーターからサポーターに移行する準備として役場の担当者が進行役を体験。 ★終了後の振り返りでメンバーと今後の教室運営について忌憚のない意見交換を行い、出席者全員で年間計画の見直しと次回の準備を行った。	コーディネーター 0名 あみいごメンバー 6名 アドバイザー 1名
8	2019年8月25日(日) 10:00～11:30	1.5	基山小体育館	大人 10 子ども 11	多言語で絵本の読み聞かせ	・外国人メンバーが母国の絵本を母語で、日本人メンバーがやさしい日本語で読み聞かせ ・読み手から質問 ・聞き手から質問 ★外国人メンバーの、基山町にはいろいろな国の人住んでいることを知ってほしい、自分の声で母国の言葉や文化を紹介したいという思いを活動にした。 ★今回はじめて、教室活動をメンバーのみで企画進行した。コーディネーターは後方支援のみ。 ★猛暑のため役場内中心に呼びかけたところ、町長以下多くの職員が休日にもかかわらず家族とともに参加し、会議の席上では伝わりにくい現場の様子を体験することができた。	コーディネーター0名 あみいごメンバー8名 役場関係者8名
9	2019年9月8日(日) 9:45～12:00	2.5	鳥栖消防署	13	消防署で火災時の心得と命の安全について学ぶ	・火災時の通報と家庭内の初期消火などについて受講者とメンバーが助け合いながら学び、消火器の使い方や心肺蘇生を体験 ・消防署内を見学し、消防士の訓練や装備について実際に目で見て、触れながら話を聞く。 ・消防署員と質疑応答 ★外国人は消防車や救急車が無料で出動することに驚き、消防署員はその費用を質問されたことに驚くという、異文化理解の場面があった。 ★事前の打ち合わせの成果として、消防士の説明のことばも工夫されていて、体験がたくさん組み入れられていた。 ★後日「あのあと、消火器を点検した」など、思い出して話題になったことが多く、有意義な活動だったようだ。	コーディネーター3名 あみいごメンバー7名 消防署員5名
10	2019年11月13日(水) 10:30～12:00	1.5	グリーンヒル宝満 熱処理施設とリサイクルセンター	5	最新のゴミ処理技術とリサイクル環境を知る、考える	・施設の一般見学コースに申し込み、学習者とメンバーが助け合いながら見学。 ・ゴミ処理とリサイクルについて話し合いと質疑応答 ★メンバーのミーティングで役割分担を決め企画、運営、進行、コーディネーターと役場職員は後方支援 ★最新技術を目の当たりにした感動を素直な気持ちで共有できていた。	コーディネーター2名 あみいごメンバー8名 施設職員2名
11	2019年12月22日(日) 10:00～12:00	2	第15区公民館	30	餅つきを体験しよう！ 自治会活動に参加する	・町内第15区の自治会のイベントに招待されて参加 ・30名の外国人町民が60名の地域住民と餅つきを通じて交流 ★メンバーからきやまぐらしのひろば「あみいご」の活動を聞いた自治会長が外国人町民を餅つきに招待。 ★自治会の人々の多くは、はじめて外国人を身近に意識し、日本語でコミュニケーションできることを体験した。 ★学習者は感謝の気持ちを伝えたり、指示を確認したり、自分の国の話をしたりする事で、自分の日本語がどの程度一般の人に通じるか体験し、自信を持つことができた。	コーディネーター1名 あみいごメンバー3名 自治会役員:3名

【主な活動】



にほんごひろば(外国語の絵本の読み聞かせ)
8月25日



にほんごひろば(消防署見学)
9月8日



にほんごひろば(もちつき)
12月22日

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
ブラッシュアップ講座 (ボランティア養成講座)	2019年7月～9月(2回)	あみいごメンバーの中から、教室の実践・運営に携わる役割を担える人材の育成を図るため、ブラッシュアップ講座を2回開催した。 7月27日 やさしい日本語講座と活動マナー 9月11日 きやまぐらしのにほんごひろば「あみいご」の目的と進め方の確認、教室活動企画運営の進め方
基山町における多文化共生社会 を考える懇談会	2019年8月22日	【趣旨】 多文化共生施策の推進を図り、誰もが住みやすく、活躍できる社会の実現を目指すため、『オール基山』での検討体制づくりとして、懇談会形式での情報交換や町の施策の方向性の検討、連携協力体制の構築を目的に開催した。 【参加者】 外国人雇用企業担当者、外国人支援団体関係者、警察・消防署職員、佐賀県国際課担当職員、佐賀県国際交流協会担当者、基山町担当課職員、町民代表者、外国人代表者 【内容】 各団体の自己紹介と連携強化、課題の共有、基山町の施策等周知(参加者27名)

【主な活動】



ボランティア養成講座
7月27日



多文化共生社会を考える懇談会
8月22日

5. 今年度事業全体について

進捗状況	一部、事業内容や実施時期の変更、中止があったが、概ね事業計画通り進行した。
成果	・日本語を使った地域住民との関係性の構築に向けた取り組みの結果、日本語教室は、平成29年度から試行的にはあるが、開始することができており、今年度は、熱心に活動いただいている外国人を含むボランティアの方に、教室運営を主体的に担っていただき、11回を開催した。 ・日本語教室や多文化共生を目指すイベントにおいては、ボランティアの協力や地域団体・関係機関との協力体制ができた。(3月1日に開催を予定していた国際フェスタについては、新型コロナウイルス感染症対策に関する対応において、イベントを中止した。) ・多文化共生社会の実現に向けた懇談会の開催により、企業や官公庁、住民代表などの情報交換や連携の強化を図ることができた。 ・日本語教室の定期的な開催に向けて、ボランティア養成講座を2回開催した。
地域の関係者との連携による効果	・日本語教室においては、特技を持つ地域の方を講師に招き、日本の伝統文化(絵手紙・書道・餅つき・茶道)や健康(看護師による講座や季節の食べ物と健康について学ぶ)などいろいろなジャンルのテーマを取り上げることができた。 ・町の出前講座(ハザードマップで自宅周辺や勤務先周辺での災害リスクを学んだり、指定避難所の確認)を活用することで、専門的な内容を知ることができた。 ・日本語教室の内容についても、地域住民や町内のまちづくり団体に協力を依頼し活動に参加させて貰うことで「オール基山」で外国人が日本語を学ぶことを応援する体制ができた。 ・消防署に協力してもらうことで、多様な取組が実施できた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(0時間) ②体制整備のための調整(38時間45分) ③人材育成のための調整(10時間30分) ④日本語教室開設及び運営のための調整(65時間15分) ⑤教材作成に向けた調整(4時間30分) ⑥その他(0時間) (具体的な内容：)

アドバイザーの 主な助言	・日本語教室を見学した上での活動に関する助言（日本語教室の活動内容の検討、広報の仕方、報告の仕方等の助言。） ・日本語教室の進め方や今後の教室の在り方に関する助言（外国人の参加者が少ない状況にあったとしても、地域において、教室活動はその参加者の多寡により継続していくものではなく、多文化共生の地域づくりに向けた居場所としての意義の助言。） ・活動に役立つ資料や素材の紹介 ・コーディネーターと基山町担当者との間の意見調整の支援 ・多文化共生を進めるための関係機関・団体の連携にかかわる情報提供や助言
今後の課題	・学習者が固定化してきていることから、学習内容の検討と、新規の学習者獲得のために取組を行う必要がある。 ・日本語教室の安定的な運営のために、教室運営に関わる人材育成及び人材確保を行っていく必要がある。 ・多文化共生推進プランの策定を進めるために、引続き行政各部署や関係団体からの生活情報の収集や、協力体制の構築に努める必要がある。
今後の予定	①日本語教室を定期的に開催する。 ②町内の自治会・まちづくり団体等に協力を依頼し、「オール基山」で生活者としての外国人住民の日本語の学びを支援する。 ③「基山町における多文化共生社会を考える懇談会」などでの意見交換を踏まえて基山町の外国人技能実習生雇用企業や生活者としての外国人が地域と繋がりを強固にしていく「明確な目的と目標」である多文化共生を推し進めるための核になる「基山町多文化共生推進プラン(案)」を作成し、パブリック・コメントを実施して広く町民の意見を反映したプランを早期に完成する。

本件担当 ： 基山町役場 まちづくり課 協働推進係